

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472601333	事業の開始年月日	平成13年4月1日
		指定年月日	平成13年4月1日
法人名	社会福祉法人恩賜財団神奈川県同胞援護会		
事業所名	グループホーム相模原		
所在地	(252-0331) 神奈川県相模原市南区大野台5-13-7		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計 8 名 ユニット数 1 ユニット	
自己評価作成日	令和7年8月7日	評価結果 市町村受理日	令和7年12月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

家庭にいるような、居心地の良い雰囲気、安心した生活を送って頂けるよう職員一人ひとりが意識を高め共有し支援をしています。

毎食キッチンで食事作りを行い利用者さんにもできる事を手伝って頂いたり、畑で野菜を育てているので苗植えや収穫までを利用者さんやご家族の方にも参加して頂きながら行い、収穫した野菜は食材として使用し、野菜の形を見て笑ったり「美味しいねえ」と言いながら採れたての新鮮な野菜を味わっています。

利用者さんご家族による「家族会」を設置し、年1回の家族総会をはじめとして、色々な行事にもご家族に参加して頂き、利用者、家族、職員の親睦を深めることにより、相談や意見要望を気軽に話せる環境を整えています。

職員の勤続年数も長い人が多く、顔なじみの職員がいることでご家族や利用者さんに安心して頂けています。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年9月16日	評価機関 評価決定日	令和7年11月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「相模大野」駅北口からバス約15分「老人ホーム入口」下車徒歩約10分、またはJR横浜線「古淵」駅から徒歩約20分の静かな住宅地に位置しています。同敷地内に特別養護老人ホームやデイサービスなどが併設されています。

<優れている点>

全職員が事業所の理念である「1. その方が歩んできた生活を大切に『私らしく』生活できるよう支援します 2. 家庭的な環境と雰囲気を提供します 3. その方の能力に応じ自立した日常生活を送れるように支援します」をコンセプトとし、利用者一人ひとりの”その人らしさ”と”残存能力”を大切に支援しています。職員はほとんどが介護福祉士の資格を保有しており、長期間にわたり勤務しています。毎月季節感のある行事を企画し、近隣住民や家族と交流できる機会の提供に努めています。また、家族会を設置し、意見交換や情報共有を行い、気軽に職員と話せる機会を設けることで、家族との良好な関係性を築いています。

<工夫点>

天気の良い日には近隣の神社や公民館への散歩、および食材の買い出しを利用者と週3回行うなど、日常的な外出を促しています。1日のスケジュールは、ドライブや外食を含め、利用者のその日のペースと希望に合わせて柔軟に計画しています。また、庭でのバーベキューや焼き芋大会、花火大会など、様々な活動に職員のアイディアを取り入れ、工夫しています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム相模原
ユニット名	1ユニット

V アウトカム項目	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目 : 23, 24, 25)
	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目 : 18, 38)
	<input type="radio"/> 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目 : 38)
	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目 : 36, 37)
	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目 : 49)
	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目 : 30, 31)
	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目 : 28)
	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目 : 9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目 : 4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しづつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目 : 11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	玄関にグループホームの理念を掲示し、職員が常に確認することができ互いに共有しながら理念に沿った支援ができている。	ベテランの職員が多く在籍し、理念にある「家庭的な環境と雰囲気」の中で、利用者が「暮らし」生活できるよう、職員会議で具体的な支援内容を話し合い、共有しています。その人らしさを大切に、その人の能力に応じた自立に向けた個別の支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年1回地域交流会の開催やよりみちカフェに参加し、他事業所や地域の方々との交流を図っている。近隣を利用者と散歩しながら地域の方と挨拶を交わし、ボランティアさんに手伝って頂きながら畑作業等も行っている。	自治会に加入し、公民館の行事・イベントや神社の祭りに参加することで、地域住民と交流を図っています。毎週火曜日に、近隣住民と一緒に中庭でラジオ体操を実施しています。畑で育て収穫したさつま芋で「焼き芋大会」を開くほか、地域交流のための「花火大会」など、イベントを実施しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	よりみちカフェやかのこカフェを通して、認知症への理解、支援の発信を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、市の職員、包括、自治会長、民生委員、利用者家族、利用者に参加頂き、グループホームの活動を報告し有意義な意見交換ができている。	2ヶ月に1回開催し、自治会長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員に加え、家族会の総会であらかじめ予定された家族と利用者が順に参加しています。会議では活動報告や事故報告を行い意見交換をしています。また、行事や地域からの情報を議事録に記録しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいく。	運営推進会議に参加して頂き、参加できない時は議事録で活動報告等行っている。また、知りたい情報を提供して頂いた事もあった。	市の職員からは、所在不明者事故発生時の連絡方法や市のネットワーク活用に関する指導やアドバイスを受けています。市のグループホーム協議会に積極的に参加し、体制や実施指導に関する最新の情報を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会の設置、施設内の合同研修、グループホーム内での職員会議時に定期的に研修を行い、職員間で常に話し合いを行い、身体拘束をしないケアを理解し取り組んでいる。	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、年に2回「身体拘束・虐待防止について」の研修を実施しています。また、利用者が一人で外部に出てしまった事例を受け、入口の施錠について職員会議で話し合い、市の基盤課にも相談しながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	委員会を設置し施設内の合同研修、グループホーム内での職員会議の時に定期的に研修を行い、職員間で話し合い虐待について見過ごされる事がないよう防止に努めている。	虐待防止委員会を設置し、虐待防止に関する研修を実施しています。身体的虐待だけでなく、暴言や無視などの心理的虐待に対しても意識を深く持ち、虐待の見過ごしがないよう、月1回の職員会議で話し合い、その後に研修を実施しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護の研修で学ぶ機会を持ち理解をしているが、実際に利用者の成年後見制度を活用している人がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には十分な説明を行い、ご家族又は本人に納得して頂いた上で契約を締結し、常にご家族等の不安や疑問点に丁寧にお応えし理解を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議への参加、又、家族会を設置し家族総会等で意見や要望をお聞きし、普段の面会時でも意見や要望等をお聞きする機会を設け、職員間で共有し会議等で話し合い、運営に反映させている。	家族会が設置されており、毎回の運営推進会議に家族および利用者が参加しています。家族からは、以前行っていた遠方の外出の再開、会則の見直しのほか、総会時期の変更などの意見が出ています。この意見を受け、総会の開催を年度初めから年度末に変更するなど、家族の意見を反映させています。	

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回職員会議を開催し、施設長、グループホーム職員が出席し、自由に意見を交換しながら事業所運営に反映されている。	職員が常に、施設長や管理者に対して、意見や提案を話しやすい体制に整備しています。利用者に対する排泄介助や入浴介助などの具体的な支援方法について、現場職員の意見を取り入れ、支援に反映させています。	
12	9 ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎日グループホームを訪ね、その日の利用者の状況把握、職員の疲労やストレスになっている状況にはないか把握に努めている。	新規採用者には管理者が個別に面談を行い、目標設定に関する指導を行い、専門性の向上を支援しています。職員は健康診断を年2回受診しています。また、有給休暇は希望通り取得できるよう、職員間で調整を行い、働きやすい職場環境の整備に努めています。	
13	10 ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月1回職員会議を開催し、対応や課題について共通の認識を持つこと、施設内研修への参加もしてもらい、利用者への関わり方、虐待防止等に向けての研修の実施をしている。	ベテランの職員が多く在籍し、ほとんどの職員が資格を取得しています。介護福祉士や介護支援専門員の試験費用、および介護支援専門員の更新手続き費用を事業所が負担し、資格取得を支援しています。また、年間に計画された研修には参加できるように努めています。	
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	市のグループホーム部会等に参加し事業所間で意見交換をしたり、市の職員に来て頂き疑問点に応えて頂きながらサービスの質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご家族からの聞き取り、生活歴、病歴等その利用者に関する情報を職員間で共有し本人を観察しながら困っている事、不安に思っている事に気づき、安心して生活ができる様寄り添っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族が話しやすい雰囲気を作り、要望や不安に思っている事等を安心して職員に話せる環境づくりをするよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族や本人が望む生活を聞き取り、その為には今どんな支援が必要かをご家族と十分話し合い、環境に慣れて頂くためデイサービスの利用を紹介する事もある。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いていく。	理念に沿って個々のその人らしさを尊重し、できる事を最大限に活かしながら日々の生活を楽しむ事ができている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族会の行事等に参加しご家族、利用者、職員が互いに理解を深め良好な関係を築き、利用者を支えていく事ができている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	アルバムや写真等を見ながら思い出話を聞いたり、お楽しみ外出等で馴染みの場所に出掛け、関わりが途切れないと支援できている。	年に1回、里帰り行事として、懐かしい場所や利用者が希望する場所へ外出しています。利用者が以前行っていた趣味などの情報を家族から聞き取り、活動を通して思い出し、楽しむことができるような支援を心がけています。また、入居前の友人が面会に来ることもあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	その時々の利用者の状態に配慮しながら座席位置などを考慮し、職員が間に入りながら利用者間のコミュニケーションを図り、孤立しないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に入所されたご家族が来所して近況を聞かせて下さったり、亡くなられて契約終了したご家族にはその後の書類等の受け渡し時にお手紙や写真をアルバムにしてお渡ししている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々利用者さんと接する中で会話、生活歴、表情を見聞きしながら、現在の状況も十分把握し寄り添い、本人の希望する生活を支援している。	居室担当者が中心となり、利用者の希望や意向を実現するため、職員会議で具体的な支援内容を話し合っています。ゆっくり寝ていたい利用者には、起床時間や朝食の時間を希望に合わせて調整しています。また、意向の把握が困難な利用者に対しても、表情や動きなどの非言語的なサインから意向をくみ取れるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時、担当者会議の折、本人やご家族から生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を聞き取り職員間で情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日の記録を取る事で現状を把握し個々の心身状況、体調を情報共有し支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	各居室担当職員が3か月に1回モニタリングを行い、全職員でアセスメントを行っている。毎月の職員会議でも状況変化がみられる利用者について話し合いを行いご家族の意向も含め介護計画を立てている。	居室担当の職員がモニタリングを担当し、ケアプランはケアマネジャーが作成しています。独自の「アセスメントまとめシート」を用いて職員会議で情報を共有しています。さらに、不足する情報はグループホーム内の連絡網で収集・周知し、ケアプランへ反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	24時間を通じ個別記録をし、職員出勤時には口頭での申し送りを行い、ノート等も活用しながら情報共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人ひとりの現在の把握に努め、車椅子が合っていなかったり転倒防止の為のベッド柵の相談等、ご家族や介護用具の事業所と検討を行った事例あり。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	近隣を散歩しながら挨拶を交わしたり、スーパーに買物に行ったり、お楽しみ外出で本人の行きたいところに出掛け、社会とのつながりを持ち楽しんで頂いている。定期的なよりみちカフェ等にも参加している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月2回、内科、歯科の往診があり、ご家族とも情報を共有しながら体調管理に努めている。突発的な受診が必要な場合は都度、看護師、医療機関、ご家族と連携をとりながら受診を行っている。	利用者の体調変化に関する情報は、医療機関、看護師、全職員、家族で常に共有しています。看護師とは24時間電話対応が可能な体制を構築しており、容態変化時の処置や対応への助言を受けることで、支援体制を強化し、職員の不安解消にもつながっています。緊急性のある場合には、家族へ連絡後、職員が通院に同行をしています。	

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々の体調変化、皮膚トラブル等異変時には必ず看護師に連絡をし、指示を仰いでいる。急を要さない時も様子観察をしながら必要に応じ伝達ボードを活用している。		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、また、できるだけ早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携は取れているが、最近入退院の事例はなし。		
33 15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人、ご家族の意向を十分に話し合い、終末期において看取りも行った。日々の記録、会議等で方針を共有しご家族、医療機関と連携をとりながら最後までその人らしく過ごして頂けるよう支援をしている。	看取りに関する指針に基づき、介護の留意点などを詳細に共有しています。看取りケアマニュアルの確認や、必要時にカンファレンスを実施しています。カンファレンスでは、利用者が「その人らしく」「人間らしく」過ごせるよう話し合いを重ね、好きだった音楽を取り入れるなどの個別的な支援を行っています。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています。	急変時、事故発生時にはフローチャートを作成し、看護師とは24時間連絡を取れる体制にあり、指示を仰いでいる。今年看取りの方が2名亡くなられたが、急変時の対応、連絡等できていた。		
35 16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に避難訓練を行い、年に数回施設合同でも訓練を行い地域との協力体制もできている。	避難訓練を定期的に行っており、直近では令和7年7月に夜間を想定した訓練を行っています。防災意識の向上と危機管理体制の強化を図るために、役割分担と注意事項を職員へ周知し、BCP(事業継続計画)の訓練として連絡体制の確認も実施しています。	近隣住民との連携や備蓄品の確保、確認、管理方法にも今後期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に一人ひとりの言葉を傾聴し、気持ちに寄り添いながら人格を尊重しプライバシーの保護に努めている。	全居室の入り口に防炎加工済みのカーテンを設置し、扉が開いた際にも外部から居室内の様子が直接見えないよう配慮しています。利用者の尊厳とプライバシーの保護を図るため、トイレの入り口も、視界に入らないようリビングの両端に配置しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	言葉かけの工夫をしながら思いや希望を自己決定できるよう本人のペースに合わせて働きかけるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その日その時の本人の体調や気持ちを尊重しながらその人のペースに合わせどう過ごしたいか、何をしたいのかを度々確認し希望に沿った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	その人らしさを大事にしながら朝起きた時の整容、洋服選び等を行い見守りをしている。自身での整容が難しい方にはYES/NOで答えられるよう言葉かけを工夫し、身だしなみのお手伝いをしている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	個々の好き嫌い等を把握しながらどうしたら食べて頂けるかを考え共有している。食事の準備を個々の力量に合わせながら切る、盛り付ける、味付け、片付け等を一緒に行い、一緒に食べ楽しいひと時になるよう対応している。	行事食は、外部から弁当を注文するなど、非日常的な食事を提供しています。年末の大掃除後には家族と一緒に食事をする機会を設けています。また、誕生日には本人にケーキを選んでもらい購入しています。朝食時間は固定せず、一人ひとりのペースに合わせてゆっくり過ごせるよう対応しています。	

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	職員が献立を作成し栄養士がチェックを行っている。一人ひとりの嚥下、咀嚼状態を把握しながら食事量、形態で提供している。記録や申し送り等で水分量を把握し、適切に水分摂取して頂いている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	月1回歯科往診があり口腔ケアを行い適切な指示を仰いでいる。毎食後口腔ケアの声掛けをし歯磨き、義歯洗浄を行い介助が必要な方は職員がお手伝いをしている。		
43 19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの概ねのパターンを把握し、自尊心に配慮しその方に応じたタイミングでトイレに案内したり必要に応じてお手伝いをしている。パッド・リハパン使用については、その方の状況に応じて会議等で検討を行っている。	利用者の排泄のタイミングや促しの頻度を把握し、個別的にトイレ誘導を行っています。自立支援の促進と経費負担の軽減を図るため、オムツやパットの使用量・使用頻度について職員会議で議論を重ね、対応しています。また、職員からの提案を受け、オムツのサイズの適合性についても検討を行っています。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便状況を記録、申し送りで把握し、水分摂取、体操等を行い必要に応じ看護師に相談しながら下剤の服用も行っている。		
45 20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	拒否があった場合には無理をせず時間や日にちを変えて対応している。洗身洗髪もできるところは自分で行い、洗い足りないところを職員が介助し入浴中はリラックスして頂けるよう声掛けの工夫を行っている。	認知機能低下により入浴手順などが不明瞭になった際も、拒否なく支援につなげるため、職員と利用者の対話や関わりを増やす支援を実施しています。個別的な対話による安心感の醸成を図るため、この声掛けの工夫は、利用者の日常生活が穏やかになるという結果につながっています。	

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	なるべく昼夜逆転にならないよう日中は個々のペースで活動を促し、安眠できるよう支援を行っている。眠りスキンシヤンを導入し眠りのパターン、リズム等を把握できるようにしている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬については概ね把握できており、薬が変わった時、臨時薬等がある場合は看護師の指示を共有し症状の変化の確認に努めている。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	今その人ができる能力を存分に發揮できる様な声掛けの工夫を行っている。季節の行事やそれに関わる準備や飾り付け等一緒に行き、張り合いが持てるよう支援を行っている。		
49	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外にかけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人ひとりの状態を見ながら一人で散歩に出掛けられる方には近隣や中庭の散歩に行ってもらっている。（フローチャートあり）ご家族の方と食事に出掛けたり、買物やドライブ、お茶飲み等その日の天候等をみながら行っている。	週に一回、敷地内で行うラジオ体操に近隣住民と一緒に参加し、体を動かす時間を設けています。生活機能の維持と社会交流の促進を図るために、散歩で神社へ参拝に出かけたり、畑の収穫も行っています。収穫した野菜は食事の一品になることもあります。月、水、金の週3回は、利用者も一緒に買い物へ参加し、時間に余裕がある時は外食を楽しむ外出支援も実施しています。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	一人ひとり預かり金があり、週1回の移動販売や買物時、外出時等好きなものを選んで買うことができ、預かり金をお渡ししご自分で精算して頂いている。一人でできない方はその方の前でお金の出し入れを一緒に確認しながら行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現在行っていない。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空調や清潔な環境を整え、季節に応じた展示物を居室やフロアに飾り心地の良い空間を提供している。	笑顔で過ごす行事の写真や、職員が考案し利用者と一緒に作成した作品を、共有部分の壁一面に展示しています。居間に飾る写真は月初めに更新しています。また、テーブルの上のパーテーションには犬や猫の写真を貼り、動物好きな利用者が声をかけたり和やかに過ごせるよう工夫しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	その時々で座席位置に配慮しながら互いに心地良い空間で過ごして頂けるよう心掛けている。一人になれる空間も作っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に各居室に使い慣れた物をお持ち頂いたり、ご家族の写真や花等を飾り心地良く過ごせるようご家族とも相談しながら工夫している。	居室担当者が衣類や生活状況を把握し、利用者と一緒に掃除を行っています。家族への衣類に関する相談などは、写真を添えて郵送で状況報告をしています。家族が居室内に飾る写真を交換することもあります。また、利用者自身がお楽しみの外出で購入した好みのものを飾り、心地よく過ごせるよう工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人ひとりのできる事、分かる事を把握し、転倒等のリスクも常に目を配り共有し、状況に応じた環境づくりに努めている。		

2025年度

事業所名： グループホーム相模原
作成日： 2025年 11月 21日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	近隣住民との連携や備蓄品の確保・確認・管理方法	災害時における近隣住民との協力連携体制をより強固に構築していく	近隣住民を交えた避難訓練の実施、具体的な協力体制の確認を運営推進会議などで話し合う	3ヶ月
2	35	近隣住民との連携や備蓄品の確保・確認・管理方法	グループホームとして備蓄品の確保、確認を全職員が理解し把握できるようにする	他部署と協力しながら期間ごとに職員会議等で備蓄品の場所、残数の確認を行う	3ヶ月
3					
4					
5					